オットーボック装具 取扱説明書 ②（製品篇）
8362 ゲニュ カレッツァ / 8353 ゲニュ ディレクサ / 8368 ゲニュ ディレクサ ステーブル

義肢装具士をはじめとする医療従事者の方々へ

このたびは本製品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。本製品を安全にお取扱いいただくために、ご使用前に必ず取扱説明書①（基本篇）と取扱説明書②（製品篇）をよくお読みいただき、使用される方に装着方法、使用上の注意、お手入れ方法などを必ずご案内ください。
また取扱説明書①②は、必要な際にいつでも参照できるようにお手元に大切に保管してください。

【適応・用途】

『8362 ゲニュ カレッツァ』『8353 ゲニュ ディレクサ』『8368 ゲニュ ディレクサ ステーブル』は膝関節を安定させるための膝装具です。

 注意 | ● 適応については、必ず医師の診断を受けてください。

【特徴】

解剖学的形状を反映させたデザインを採用し、本体が前面で開放するため、装着と脱着が容易です。本体素材に通気性に優れた吸汗発散素材を採用することで、皮膚表面を快適な状態に保ちます。

8362 ゲニュ カレッツァ：
内側面、外側面にそれぞれ挿入されたスパイラルステーが膝関節の安定性をサポートします。また伸縮性に優れた 2 本の周回ベルトが快適なフィット性を高めます。

8362

8353 ゲニュ ディレクサ：
内側面、外側面のそれぞれにアルミニウム製の 2 軸の膝継手（ステー）が挿入されています。また伸縮性に優れた 2 本の周回ベルトが快適なフィット性を高ています。

8353

8368 ゲニュ ディレクサ ステーブル：
本体の内側面と外側面には、可動域制限が可能なアルミニウム製の 2 軸の膝継手（ステー）がそれぞれ挿入されています。また、前面後面のベルトで支持性を高めることが可能です。

8368

注意
- ● 本製品の本体にはネオプレン素材が使われていますので、装着時間については医師の指示に従ってください。
- ● 装着部位が保温されることにより不具合が生じる場合には、ネオプレン素材を使用していない他の製品を使用いただくことをおすすめします。
- ● 天然ゴムまたは合成ゴムによるアレルギーがある場合には、事前に医師に相談してください。

【サイズの選び方】

下記よりサイズを選択してください。

（一箱 :1 個入り）

製品名 / 発注品番			サイズ	適用範囲		
ゲニュ カレッツァ	ゲニュ ディレクサ	ゲニュ ディレクサ ステーブル		大腿周径（cm）	下腿周径（cm）	計測位置
8362=XXS-7	8353=XXS-7	8368=XXS-7	XXS	36～40	29～32	15 cm / 15 cm
8362=XS-7	8353=XS-7	8368=XS-7	XS	40～44	32～35	
8362=S-7	8353=S-7	8368=S-7	S	44～48	35～38	
8362=M-7	8353=M-7	8368=M-7	M	48～52	38～41	
8362=L-7	8353=L-7	8368=L-7	L	52～56	41～44	
8362=XL-7	8353=XL-7	8368=XL-7	XL	56～61	44～48	
8362=XXL-7	8353=XXL-7	8368=XXL-7	XXL	61～67	48～51	

・左右兼用
・計測値が 2 サイズにまたがる場合は、大きい方のサイズをお選びください。
・XXS、XXL サイズはドイツからの取寄せとなります。

【サイズの測り方】
イラストのように膝蓋骨中心から 15cm 上の大腿部周径と、15cm 下の下腿部周径を測定します。

写真3- ⑥ - 1（内側面）　写真3- ⑥ - 2（後面）

⑥ ベルトを ❶ - ❽ の順番にしめます（写真3- ⑥）。各『ベルト』は、適度な強さでしっかりと締めてください。

- ❶ 大腿前面カフベルト［ 太 ］
- ❷ 下腿前面カフベルト［ 太 ］
- ❸ 下腿後面カフベルト［ 太 ］
- ❹ 大腿後面カフベルト［ 太 ］
- ❺ 下腿前面ベルト［ 細 ］
- ❻ 大腿前面ベルト［ 細 ］
- ❼ 下腿後面ベルト［ 細 ］
- ❽ 大腿後面ベルト［ 細 ］

写真3- ⑦ - 1

写真3- ⑦ - 2

⑦ 後面のベルトは、医師・義肢装具士のもと、調整してください。必要に応じて、大腿後面ベルト［細］❽ と下腿後面ベルト［細］❼を交叉させて使用することも可能です。（写真3- ⑦ - 2）

義肢装具士をはじめとする医療従事者は、本製品が正しい位置で装着できるよう調整されていることを必ず確認した上で、使用者に手渡してください。

備 考 | ● 後面のベルトは最初に調整したらそれ以降は取り外さないで、初回の設定位置のままでご使用されることをお勧めします。

【お手入れ方法と注意事項】

 注意 | ● お手入れをされる場合には、取扱説明書 ①【お手入れ方法と注意事項】を必ずご覧ください。

・膝継手（ステー）を取外してからお手入れをしてください。
・繊維を傷めたり、伝線やほつれの原因となることがありますので、全ての面ファスナーを閉じてお手入れしてください。

【品質表示】

ゲニュ カレッツァ：
本体：ナイロン、ポリウレタン / スパイラルステー：鉄

ゲニュ ディレクサ：
本体：ナイロン、ポリウレタン / 膝継手（ステー）：アルミニウム

ゲニュ ディレクサ ステーブル：
本体：ポリエステル、ポリウレタン、ナイロン / 膝継手（ステー）：アルミニウム

お問合わせ先

輸入販売元
オットーボック・ジャパン株式会社 www.ottobock.co.jp
〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F TEL:03-3798-2111(代表) FAX:03-3798-2112

O-IFU-T-8362/8353/8368-201505-PIT

【調整方法と装着手順】

⚠ 注意	● 本製品を初めて装着される際には、必ず医師、義肢装具士をはじめとした医療従事者による調整と装着手順の指導が必要となります。
備　考	● 本製品を日常的に使用される場合には、適切な装着のためにも、医療従事者、介助者などの補助のもとで装着することをお勧めします。

装着前に取扱説明書①基本篇の【使用上の注意―必ずお読みください―】をよく読み、また、医療従事者による装着手順の指導に従って、正しく装着してください。尚、装着前の調整は以下の順番で行なってください。（写真は右足での手順を示しています。左足の場合はベルトの位置が左右逆になります。）

備　考	● 装着者が安全に、かつ適切に装着するために、イスに浅く腰かけて、以下の装着手順を行ってください。

1. 8362 ゲニュ カレッツァ

装着手順

写真1-①

写真1-②

① 全ての面ファスナーを開け、膝の後面から本装具をあてます。この時、膝蓋骨が膝蓋骨開放部に合うようにします（写真1-①）。

② 遠位の面ファスナーをしっかりと留め、次に近位の面ファスナーを留めます。本体素材の伸縮性を生かし、伸ばしながらしっかりと留めてください（写真1-②）。

写真1-③

③ 2本の周回ベルトを遠位、近位の順で留めます（写真1-③）。

全体を強く締めすぎないよう注意し、正しく装着されていることを確認してください。

2. 8353 ゲニュ ディレクサ

膝継手（ステー）の調整方法

写真2-①

写真2-②

① 膝継手（ステー）を引き抜き、形状の調整をします。
サポーターの内外側の鞘（さや）内上部の黒色のストラップを引きあげます。黒ストラップを引きあげることで膝継手（ステー）上部を鞘内のポケット部よりはずすことができます。
膝継手（ステー）を鞘から抜き取り、必要に応じて形状調整を行ってください（写真2-①）。

② 刻印された番号が表から見えるように膝継手（ステー）を戻します。黒ストラップを引きあげ、鞘内のポケット部にもどしてください（写真2-②）。

装着手順

写真2-③

写真2-④

③ 全ての面ファスナーを開け、膝の後面から本装具をあてます。この時、膝蓋骨が膝蓋骨開放部に合うようにします（写真2-③）。

④ 遠位の面ファスナーをしっかりと留め、次に近位の面ファスナーを留めます。本体素材の伸縮性を生かし、伸ばしながらしっかりと留めてください（写真2-④）。

写真2-⑤-1

写真2-⑤-2

⑤ 2本の周回ベルトを遠位、近位の順で留めます。
（写真2-⑤-1、⑤-2）

全体を強く締めすぎないよう注意し、正しく装着されていることを確認してください。

義肢装具士をはじめとする医療従事者は、本製品が正しい位置で装着できるよう調整されていることを必ず確認した上で、使用者に手渡してください。

3. 8368 ゲニュ ディレクサ ステーブル

膝継手（ステー）の調整方法

写真3-①-1

写真3-①-2

① 膝継手（ステー）を引き抜き、内外側ステーの調整をします。
サポーターの内外側（ステー）の鞘（さや）内上部の黒色のストラップを引きあげます。黒ストラップを引きあげることで膝継手（ステー）上部が鞘内のポケット部よりはずすことができます（写真3-①-1）。
膝継手（ステー）を鞘から抜き取り、必要に応じて形状調整を行ってください（写真3-①-2）。

写真3-②

②「Click 2 Go システム」により、膝継手（ステー）の可動域制限を調整します。

本製品には膝関節可動域を制限するために、以下の角度制限用チップ（ROM チップ）が同梱されています。

【ROM チップ】
伸展制限チップ（つまみ形状：正方形）： 0°/10°/20°/30°/45°
屈曲制限チップ（つまみ形状：円形）　： 0°/10°/20°/30°/45°
60°/75°/90°

【膝関節可動域の角度設定】
可動域制限に必要な伸展制限チップおよび屈曲制限チップを選択し、それぞれ膝継手（ステー）に挿入します。
伸展制限チップを膝継手前部の差込口に、屈曲制限チップを膝継手後部の差込口にそれぞれ挿入してください。
ROM チップ挿入の際、「カチッ」という音が確認できるまで差込んでください（写真③-2）。

写真3-③

③ 刻印された番号が表から見えるように膝継手（ステー）を戻します。黒ストラップを引きあげ、鞘内のポケット部にもどしてください（写真3-③）。

⚠ 注意	● 膝関節の可動域の調整の際は、必ず両側（内側および外側）で同じ角度設定となるよう『ROM チップ』の設定を行ってください。

装着手順

写真3-④

写真3-⑤

④ 本体の全ての面ファスナーを開き、膝の後面より本装具をあてます。膝蓋骨が装具の膝蓋骨解放部に合うよう確認します（写真3―④）。

⑤ 本体下腿部の面ファスナーを閉じ、その後に大腿部の面ファスナーを閉じます。本体素材の伸縮性を利用し、両端を引っ張りながら面ファスナーを留めます（写真3―⑤）。